

参考資料

REFERENCE DATA

I 主要指標等

1	経営耕地面積	54
2	農業就業人口	55
3	土壌生産力	56
4	土壌分布	56
5	地目別土壌化学性の動向	57
6	「環境農業に関する主な法律」年譜	60
7	環境にやさしい農業の取組状況	61

II これまでの取組(平成23年度～平成27年度)

1	農業生産の基本となる健康な土づくりの推進	68
2	土づくりを基本とした環境にやさしい農業の拡大	69
3	消費者等の信頼を確保する安全・安心システムづくり	72

III 青森県「攻めの農林水産業」推進本部土づくり部会

1	推進体制	74
2	土づくり部会委員名簿	74

IV 第2期「日本一健康な土づくり運動」推進プランの策定

1	策定主体と策定の進め方	75
2	策定までの経緯	75

(参考) 農業者等のアンケート及びヒアリング調査票様式

V 用語説明

I 主要指標等

1 経営耕地面積

県内の経営耕地面積は減少傾向にあり、耕作放棄地が増加している。

表1 経営耕地面積の推移 (単位：ha)

区分	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
経営耕地面積	124,964	119,483	109,801	104,000	94,103
耕作放棄地面積	4,572	7,137	7,981	7,435	7,975
耕作放棄地率	3.5%	5.6%	6.8%	6.7%	7.8%

資料：農林業センサス

注) 耕作放棄地率＝耕作放棄地面積／(経営耕地面積＋耕作放棄地面積)×100

表2 経営耕地の状況(販売農家) (単位：ha)

区分	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
田	72,315	65,785	61,074	55,435
稲	54,058	49,450	44,651	45,125
稲以外の作物	12,474	13,021	12,092	8,510
作付けなし	5,783	3,314	4,331	1,800
畑	25,653	23,925	23,584	20,759
普通作物	19,720	17,845	14,845	13,441
飼料作物			1,136	752
牧草専用	3,478	3,859	4,714	4,060
作付けなし	2,455	2,221	2,889	2,506
樹園地	19,614	18,194	17,455	16,229
経営耕地総面積計	117,582	107,905	102,112	92,422

資料：農林業センサス

注1) 「作付けなし」：過去一年間作物の作付けがなかった面積

注2) 四捨五入の関係により、合計値と一致しない部分がある。

2 農業就業人口

農業就業人口は、年々減少しており、高齢化が進んでいる。

表3 農業就業人口の推移 (単位：人)

区分	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
農業就業人口	120,097	109,550	96,166	80,483	64,746
うち65歳以上	38,686	46,536	46,648	41,328	35,258
高齢化率	32.2%	42.5%	48.5%	51.3%	54.5%

資料：農林業センサス

注) 農業就業人口：15歳以上の世帯員のうち、主に自営農業に従事している者をいう。

表4 農業就業人口の年齢別構成及び平均年齢の推移（販売農家）（単位：人）

区分	平成12年		平成17年		平成22年		平成27年	
70歳以上	27,832	25.4%	32,153	33.4%	30,824	38.3%	24,948	38.5%
60～69	33,632	30.7%	25,370	26.4%	21,028	26.1%	19,944	30.8%
50～59	18,959	17.3%	18,374	19.1%	15,319	19.0%	10,254	15.8%
40～49	15,024	13.7%	10,151	10.6%	6,448	8.0%	4,408	6.8%
30～39	6,832	6.2%	4,301	4.5%	3,164	3.9%	2,971	4.6%
20～29	2,917	2.7%	2,792	2.9%	2,084	2.6%	1,466	2.3%
20歳未満	4,354	4.0%	3,025	3.1%	1,616	2.0%	755	1.2%
合計	109,550	100.0%	96,166	100.0%	80,483	100.0%	64,746	100.0%
平均年齢	58.0歳		60.3歳		62.6歳		63.8歳	

資料：農林業センサス

表5 農業経営類型別農家数（販売農家）（単位：戸）

区分	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
単一経営	40,322	34,238	29,235	25,554
稲作	25,344	18,493	14,071	10,822
畑作	375	409	416	262
野菜	2,280	2,797	3,238	3,180
果樹	10,475	10,703	9,863	10,035
その他作物	1,123	1,141	939	720
畜産	725	695	708	535
複合経営	16,393	12,425	10,783	7,590
販売なし	3,281	4,127	3,296	1,722
計	59,996	50,790	43,314	34,866

資料：農林業センサス

注1)「販売農家」：経営耕地面積30a以上又は農産物販売金額50万以上の農家

注2)「単一経営」：主位部門の販売金額が8割以上の経営

注3)「販売なし」：「販売農家」のうち、過去一年間販売がなかった農家

3 土壌生産力

土壌の生産力可能性等級面積割合をみると、本県は生産力が高い1等級と2等級が65%に達し、東北平均の56%、全国平均の48%を上回り、総合的な土壌生産力が高い県となっている。

表6 土壌生産力可能性等級別面積（全耕地）（単位：百 ha、%）

地域	1等級	2等級	3等級	4等級	合計
青森県	0(0)	1,106(65)	601(35)	2(0)	1,709(100)
秋田県	4(0)	582(40)	833(57)	36(3)	1,455(100)
岩手県	0(0)	797(48)	830(49)	56(3)	1,683(100)
宮城県	0(0)	901(61)	553(37)	30(2)	1,484(100)
山形県	11(1)	792(52)	685(45)	25(2)	1,513(100)
福島県	0(0)	1,142(68)	528(32)	0(0)	1,670(100)
東北	16(0)	5,319(56)	4,030(42)	149(2)	9,514(100)
全国	74(0)	24,518(48)	24,973(49)	1,656(3)	51,221(100)

資料：日本の耕地土壌の実態と対策（昭和52年）

注1）（ ）は構成比

注2）土壌生産力可能性等級：作物に対する制限因子や土壌悪化の程度などの要素に基づき、生産力が高い順に土壌を1等級から4等級に区分

4 土壌分布

津軽地域はグライ土が最も多く、県南地域は黒ボク土が多いなど、地域によって大きく異なっている。

表7 地域別土壌群面積（単位：ha）

区分	東青	中南	西北	三八	上北	下北	計
岩屑土	0	0	0	0	0	218	218
砂丘未熟土	0	0	266	0	0	183	449
黒ボク土	4,497	11,817	7,174	17,033	32,954	5,174	78,649
多湿黒ボク土	586	2,748	162	1,184	908	59	5,647
黒ボクグライ土	491	739	0	32	3,219	16	4,497
褐色森林土	321	2,508	40	0	0	0	2,869
黄色土	0	0	0	0	0	0	0
褐色低地土	0	0	0	1,469	208	510	2,187
灰色低地土	3,973	9,541	4,082	3,858	4,217	250	25,921
グライ土	5,054	5,148	18,514	1,450	90	1,271	31,527
黒泥土	171	183	81	1,148	861	39	2,483
泥炭土	725	546	8,563	966	4,791	813	16,404
計	15,818	33,230	38,882	27,140	47,248	8,533	170,851

注）地力保全基本調査総合成績書 青森県02（昭和53年、青森県農業試験場）

5 地目別土壌化学性の動向

(1) 水田

調査開始時から平成9年度(4巡目)までの期間、塩基飽和度はいずれの塩基とも低下する傾向にあった。5巡目以降はやや改善される傾向が窺われるが、最新の7巡目調査でも目標値未満の地点が81%と塩基不足の状況にある。可給態りん酸含量は増加傾向にあり、53%の地点が目標値を超えている。可給態ケイ酸含量は不足傾向にあり、78%の地点で目標値を下回っている。なお、可給態ケイ酸含量は7巡目から分析方法が変更された値を利用している。

(2) 普通畑

塩基飽和度は6巡目以降増加傾向にあるものの、依然として57%の地点が目標値を下回っている。特に、苦土が不足しているため、苦土カリ比が目標値に到達している割合が低く、塩基バランスが悪い地点が多い。可給態りん酸含量は前回調査より減少し、過剰な蓄積が抑制されている傾向にある。調査開始時から見ると、全炭素含有率は低下し、可給態窒素含量も減少する傾向にある。

(3) 樹園地

石灰、苦土含量は減少する傾向にあり、石灰飽和度が目標値を下回っている地点の割合は71%と多い。一方、カリ飽和度は67%の地点が目標値を超えており、苦土カリ比が目標値よりも低い地点が多い。調査開始時から見ると減少傾向にあった全炭素及び全窒素含有率は前回調査よりも増加したが、可給態窒素含量は依然として減少傾向にある。

(4) 牧草地

石灰、苦土含量ともに増加傾向にあり、石灰飽和度が目標値を上回っており地点の割合が100%と蓄積の傾向にある。カリ含量は7巡目調査では適正な量に維持されている。調査開始時から見ると、可給態窒素含量が減少し、可給態りん酸含量が増加する傾向にある。

(5) 施設

塩基飽和度、可給態りん酸含量ともに前回調査と同水準に高く、すべての地点が目標値を超え、他の地目より肥料成分の蓄積が著しい。ECの高い地点があるため、塩基飽和度が高いにもかかわらず、土壌pHは目標値未満の地点が25%認められている。全炭素含有率は低下し、可給態窒素含量は減少する傾向にある。

表8 地目別土壌化学性の動向（青森県）

地目	調査時期	pH (H ₂ O)	全炭素(%)	全窒素(%)	炭素率(%)	塩基交換容量 (me)	交換性塩基 (mg/100g)			塩基飽和度 (%)	りん酸吸収係数	可給態 (mg/100g)			遊離酸化鉄 (%)
							CaO	MgO	K ₂ O			P ₂ O ₅	SiO ₂	N	
水田	1巡	5.6	4.23	0.30	14.1	25.6	271	71	35	57	1070	14.1	27.6	13.6	1.72
	2巡	5.6	3.95	0.30	13.2	22.9	240	56	29	56	1120	18.6	30.6	12.1	1.64
	3巡	5.5	4.09	0.31	12.9	24.3	242	54	30	51	1110	21.7	26.7	15.4	1.71
	4巡	5.5	3.82	0.29	13.2	26.1	236	56	31	46	1070	19.7	24.8	13.3	1.60
	5巡	5.4	3.72	0.29	12.5	22.1	208	54	26	49	1030	25.9	20.3	12.9	1.67
	6巡	5.5	3.50	0.29	12.1	24.0	228	53	25	50	1100	22.9	29.7	13.9	1.76
	7巡	5.5	3.79	0.30	12.4	24.3	258	51	27	51	1050	24.1	11.9	17.0	1.26
普通畑	1巡	5.9	5.74	0.36	15.9	27.4	355	51	67	61	1540	31.9	-	6.9	-
	2巡	5.8	5.62	0.38	14.8	26.3	307	45	61	56	1600	42.4	-	6.1	-
	3巡	5.8	5.40	0.38	14.1	27.4	299	46	62	57	1600	47.6	-	5.4	-
	4巡	5.8	5.13	0.40	12.7	27.5	314	48	60	53	1610	47.3	-	4.4	-
	5巡	5.7	4.72	0.35	13.4	25.4	255	37	65	49	1670	43.4	-	4.1	-
	6巡	5.8	4.99	0.38	13.1	28.6	358	51	76	60	1520	55.6	-	3.9	-
	7巡	6.1	3.82	0.30	12.8	26.2	352	50	72	64	1550	39.5	-	2.3	-
樹園地	1巡	6.1	6.36	0.45	14.1	35.6	528	76	77	68	1440	46.7	-	6.6	-
	2巡	6.0	6.70	0.50	13.4	34.4	544	62	102	71	1440	69.4	-	10.1	-
	3巡	5.7	7.53	0.53	13.6	37.0	505	56	93	60	1480	92.2	-	11.2	-
	4巡	5.9	6.65	0.50	12.9	34.9	479	47	77	59	1540	64.0	-	6.5	-
	5巡	5.8	4.91	0.36	13.1	31.1	353	51	75	57	1570	38.3	-	6.1	-
	6巡	5.9	5.05	0.37	13.6	32.5	394	45	75	56	1330	50.5	-	6.1	-
	7巡	5.8	6.21	0.45	13.7	35.7	428	44	69	55	1570	46.8	-	4.5	-
牧草地	1巡	5.6	7.20	0.47	15.3	28.6	213	21	47	34	1850	5.1	-	11.2	-
	2巡	5.6	7.51	0.48	15.6	29.2	270	28	34	40	2050	9.2	-	10.8	-
	3巡	5.5	7.98	0.53	14.8	30.0	237	29	41	36	2150	9.3	-	9.8	-
	4巡	5.6	6.23	0.49	13.4	29.3	318	42	55	48	1830	17.6	-	8.6	-
	5巡	5.3	6.76	0.50	13.6	29.5	208	40	58	37	1960	13.7	-	10.9	-
	6巡	5.6	5.69	0.40	14.2	27.9	249	48	40	45	1889	13.8	-	11.2	-
	7巡	6.9	7.71	0.54	14.3	43.0	1023	81	37	96	1960	25.7	-	8.4	-
施設	5巡	6.0	5.24	0.41	12.7	29.9	594	118	85	96	1410	149	-	7.2	-
	6巡	6.1	4.86	0.4	12.2	32.5	834	143	103	124	1424	193	-	4.2	-
	7巡	6.4	4.28	0.34	12.6	35.3	848	159	67	122	1420	210	-	1.6	-

注1) 調査時期 1巡：S54～57年、2巡：S59～62年、3巡：H元～4年、4巡：H6～9年、5巡：H11～14年、6巡：H16～19年、7巡：H21～24年

注2) 塩基飽和度には、交換性 Na₂O も含まれる。

表9 地目別の目標到達状況 (%)

地目	地点割合 (%)	pH (H ₂ O)	塩基飽和度 (%)				苦土カリ比 (当量比)	可給態りん酸 (mg/100)	可給態ケイ酸 (mg/100)	EC(mS/cm)
			全塩基	石灰	苦土	カリ				
水田	目標値	5.5 ~ 6.5	60 ~ 80	40 ~ 55	10 ~ 20	3 ~ 6	2以上	10 ~ 20	15以上	-
	不足	56	81	59	50	78	3	9	78	-
	適正	34	16	38	47	22	97	38	22	-
	過剰	9	3	3	3	0	0	53	0	-
普通畑	目標値	6.0 ~ 7.0	70 ~ 90	45 ~ 75	10 ~ 25	3 ~ 6	2以上	20 ~ 50		-
	不足	52	57	43	52	22	74	30		-
	適正	48	35	57	48	26	26	52		-
	過剰	0	9	0	0	52	0	17		-
樹園地	目標値	6.0 ~	60 ~ 80	50 ~ 70	4 ~ 10	1.5 ~ 3	1以上 (mg含量比)	-		-
	不足	76	57	71	29	10	76	-		-
	適正	24	24	19	52	24	24	-		-
	過剰	0	19	10	19	67	0	-		-
牧草地	目標値	6.0 ~ 6.5	60 ~ 80	50 ~ 60	3 ~ 10	1 ~ 3	3以上	2 ~ 10		-
	不足	0	0	0	0	0	0	0		-
	適正	0	0	0	100	100	100	100		-
	過剰	100	100	100	0	0	0	0		-
施設	目標値	6.0 ~ 6.5	70 ~ 80	50 ~ 70	10 ~ 25	3 ~ 6	2以上	20 ~ 50		0.7 以下
	不足	25	0	0	0	25	0	0		0
	適正	25	0	25	75	75	100	0		75
	過剰	50	100	75	25	0	0	100		25

注) 調査年次: H21 ~ 24年 (7巡目)

6 「環境農業に関する主な法律」年譜

制定年	法律名	概要
昭和22年	食品衛生法	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性の確保の概要ために、飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止 ・国民の健康の保護
昭和23年	農薬取締法	<ul style="list-style-type: none"> ・農薬の品質の適正化とその安全かつ適正な使用の確保 ・農業生産の安定、生活環境の保全
昭和25年	肥料取締法	<ul style="list-style-type: none"> ・肥料の品質等の保全と安全な施用を確保 ・農業生産力の維持増進
	農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律（JAS法）	<ul style="list-style-type: none"> ・農林物資の品質の改善、生産の合理化、取引の単純公正化及び使用又は消費の合理化 ・農林物資の品質に関する適正な表示
昭和28年	飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律（飼料安全法）	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料の安全性の確保及び品質の改善 ・公共の安全の確保と畜産物等の生産の安定
	と畜場法	<ul style="list-style-type: none"> ・と畜場の経営及び獣畜の処理の適正確保
昭和35年	薬事法	<ul style="list-style-type: none"> ・保健衛生の向上
平成5年	環境基本法	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進 ・環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築 ・国際的協調による地球環境保全の積極的な推進
平成11年	食料・農業・農村基本法	<ul style="list-style-type: none"> ・多面的機能の発揮 ・農業の持続的な発展 ・自然循環機能の維持増進
	農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律の一部改正	<ul style="list-style-type: none"> ・有機食品の検査認制度 ・すべての生鮮食料品に「原産地」表示の義務付け
	肥料取締法の一部改正	<ul style="list-style-type: none"> ・堆肥等特殊肥料についての適切な施用の促進
	持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・環境と調和のとれた農業生産の確保 ・エコファーマーの金融、税制上の特例措置
	家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律（家畜排せつ物法）	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進
平成12年	循環型社会形成推進基本法	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の物質循環の確保 ・天然資源の消費の抑制 ・環境負荷の低減
平成18年	有機農業の推進に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の持続的な発展及び環境と調和のとれた農業生産の確保 ・有機農業の推進に関する施策を総合的に講じて有機農業の発展を図る
平成27年	農業の有する多面的機能の発展の促進に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・農業・農村の有する多面的機能の維持・発展を図るため、自然環境の保全に資する農業生産活動等を推進

7 環境にやさしい農業の取組状況

(1) 販売農家における「化学肥料及び農薬の低減、堆肥による土づくり」の取組状況

表10 環境にやさしい農業に取り組んでいる経営体 (単位：戸、%)

区分	農業 経営体数	取組 経営体数	全国 順位	取組内容(複数回答)					
				化学肥料 の低減	順位	農薬の低減	順位	堆肥による 土づくり	順位
青森県	35,914	12,246 (34.1)	14	6,989 (19.4)	15	8,433 (23.5)	18	6,018 (16.8)	14
全国	1,377,226	466,460 (33.9)	-	284,229 (20.6)	-	361,918 (26.3)	-	219,543 (15.9)	-

資料：2015年農林業センサス
注) カッコ内の数値は、農業経営体数に対する割合

(2) エコファーマー

表11 エコファーマー認定者数等の推移 (単位：人、ha)

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度(全国順位)
人数	5,491	4,583	4,253	3,629	3,145 (16)
面積	6,004	5,209	4,788	4,085	3,754 (-)

資料：県食の安全・安心推進課調べ

表12 平成27年度のエコファーマーの地域別認定状況 (単位：人、ha)

区分	東青	中南	三八	西北	上北	下北	合計
人数	252	1,322	401	995	175	0	3,145
面積	142	1,499	425	1,416	272	0	3,754

資料：県食の安全・安心推進課調べ

表13 平成27年度のエコファーマーの作物別認定状況 (単位：人、ha)

区分	水稻	畑作物	野菜	果樹	花き	合計
人数	393	33	1,222	1,497	0	3,145
面積	781	299	937	1,737	0	3,754

資料：県食の安全・安心推進課調べ

(3) 青森グリーンライス

表14 青森グリーンライスの取組面積等の推移 (単位：ha、t)

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
実績面積	3,205	2,580	2,265	1,896	1,595
実出荷量	14,424	13,363	11,278	9,938	8,087

資料：県農産園芸課調べ「特色のある米づくりの取組状況」より

表15 平成27年度の青森グリーンライスの取組内容 (単位：ha、t)

区分	つがるロマン		まっしぐら		合計
	特別栽培	農薬節減	特別栽培	農薬節減	
実績面積	355	790	40.4	409	1,595
実出荷量	2,016	3,926	198	1,947	8,087

資料：県農産園芸課調べ「特色のある米づくりの取組状況」より
注1) 特別栽培－農林水産省が示す「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」に即した「特別栽培農産物」
(化学肥料と農薬をともに慣行の5割削減)
注2) 農薬節減－農薬のみを慣行の5割削減

(4) 青森県特別栽培農産物

表16 青森県特別栽培農産物認証制度による認証件数等の推移 (単位：件、人、ha)

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
件数	233	229	232	249	242
取組人数	184	157	128	139	146
面積	452	424	397	416	412

資料：県食の安全・安心推進課調べ

表17 平成27年度の青森県特別栽培農産物の地域別状況 (単位：人、ha)

区分	東青	中南	三八	西北	上北	下北	合計
件数	32	50	63	65	24	8	242
面積	23	110	35	166	67	11	412

資料：県食の安全・安心推進課調べ

表18 平成27年度の青森県特別栽培農産物の作物別認証状況 (単位：ha、%)

区分	米	畑作物	野菜	果樹	合計
面積	232	21	63	96	412
割合	56	5	15	23	100

資料：県食の安全・安心推進課調べ

(5) 有機農産物

表19 有機JAS認定の推移 (単位：戸、ha、事業者)

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度(全国順位)
農家戸数	57	63	52	46	43 (29位)
面積	336	325	337	350	305 (8位)
生産工程管理者 (有機農産物)	16	17	15	17	17 (36位)

資料：国公表資料

(6) 「あおり土づくりの匠」

表20 「あおり土づくりの匠」認定者数の推移 (単位：名)

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	計
認定者数	11	15	9	6	6	47

資料：県食の安全・安心推進課調べ

表21 「あおり土づくりの匠」の地域別認定状況 (単位：名)

区分	東青	中南	三八	西北	上北	下北	合計
認定者数	6	8	5	8	20	0	47

資料：県食の安全・安心推進課調べ

表22 「あおもり土づくりの匠」認定者一覧

年度	氏名	市町村	主な作目	備考
H24 (11名)	桑田 税 川村 公夫 山田 正 中野渡 正光 木村 俊雄 工藤 憲男 吉田 誠也 坂本 佐兵衛 福士 忍頭 三上 新一 泉山 茂	青森市 弘前市 十和田市 十和田市 平川市 平川市 つがる市 蓬田村 板柳町 中泊町 南部町	トマト トマト ねぎ、ながいも トマト りんご、もも 水稲 中玉トマト、メロン 堆きゆう肥(採卵鶏) りんご、おうとう 水稲、大豆、小麦 りんご、ゼネラルクラーフ	(有)フレック農産 (有)瑞宝
H25 (15名)	木立 吾衛 其田 秀幸 仁和 勝千代 山田 清徳 大浦 進 平舘 龍太郎 川村 彰男 布施 久 種市 精一 古川 徹 荒関 敬悦 中野 静毅 野田頭 稔 向井 博徳 漆戸 亨	青森市 五所川原市 十和田市 十和田市 十和田市 十和田市 十和田市 十和田市 三沢市 藤崎町 中泊町 七戸町 東北町 東北町 五戸町	ねぎ、トマト ながいも、トマト等 ながいも、乳牛、肉牛 ねぎ、ながいも等 ごぼう、ながいも等 にんにく、ねぎ等 堆きゆう肥(豚・乳牛) 堆きゆう肥(豚・採卵鶏) にんにく、ながいも等 水稲、大豆 水稲、大豆 ながいも、にんにく ながいも、だいこん等 ながいも、にんにく等 りんご	(有)其田農園 (株)川村畜産 (有)ふなばやし農産 (有)ケイホットライス
H26 (9名)	佐藤 耕一 仁和 正一 大久保 芳樹 立花 肇 工藤 秀明 木立 純一 成田 健二郎 村山 淳一 中里 徳支	弘前市 十和田市 十和田市 三沢市 平川市 平内町 板柳町 野辺地町 五戸町	トマト ながいも、ごぼう ながいも、にんにく ながいも、ごぼう りんご 堆きゆう肥(乳牛) りんご こかぶ ながいも、にんにく	(株)釈迦のりんご園 (有)成田りんご園
H27 (6名)	我満 智 小笠原 俊也 三浦 藤市 袴田 誠一 山本 政義 荻沢 功	青森市 つがる市 平川市 六戸町 おいらせ町 新郷村	ミニトマト 水稲、プロッコリー等 りんご ながいも、ごぼう にんじん、ながいも等 きく、ほうれんそう	(株)那由多のりんご園 (有)ナチュラルファーム
H28 (6名)	福士 明宏 工藤 三千輝 谷川 信秀 菊池 國廣 藤谷 義秋 相内 洋夫	青森市 つがる市 平川市 横浜町 六ヶ所村 南部町	水稲、大豆、りんご 水稲、ながいも、にんにく 堆きゆう肥(肉牛) ばれいしょ、ごぼう等 ながいも、ごぼう、だいこん ながいも、にんじん	(株)たにかわ牧場
合計	47名(耕種42名、畜産5名)			

II これまでの取組(平成24年度～平成27年度：一部23年度及び28年度実施分含む)

1 農業生産の基本となる健康な土づくりの推進

(1) 健康な土づくりを実践する「土づくりファーマー」の育成

ア 啓発資料等の作成

年度	啓発資料等
23	<p>←「健康な土づくりを基本とした環境にやさしい農業事例集」(1月：850部)</p> <p>リーフレット「有機質資源の有効利用」(5月：7万枚) →</p>
24	<p>リーフレット「あおり土づくりの匠」(3月：1千枚)</p> <p>リーフレット「土壌診断と有機質資源を有効に活用しよう！」(3月：7万枚)</p>
25	<p>リーフレット「あおり土づくりの匠」(3月：3千枚)</p>
26	<p>リーフレット「あおり土づくりの匠」(3月：3千枚)</p> <p>青森県「攻めの農林水産業」推進本部 稲わら有効利用啓発用マグネット(3月：50枚)</p>



**リーフレット
「あおもり土づくりの匠」
(3月：3千枚)**




**消費者用啓発チラシ
(12月：2千枚)**

イ フォーラム等の開催

年度	開催月日	内容	参加人数
24	1月30日	安全・安心な農産物生産推進大会	148人
25	12月20日	〃	180人
26	12月11日	〃	153人
27	8月10日 12月15日	有機農業実践者等との現地意見交換会 環境にやさしい米と土づくり推進大会	11人 220人
28	12月14日	安全・安心な農産物生産推進大会	110人

ウ 土づくり技術マニュアルの作成 (平成20年12月)

	I 土壌診断と対策 (1) 土づくり (2) 土壌診断の方法と活用
	II 各作物の土づくり (1) 水稲 (2) 果樹 (3) 畑作・野菜 (4) 花き (5) 草地・飼料作物 (6) 環境保全技術
	III 堆肥 (1) 堆肥の種類と特徴 (2) 堆肥施用時の施肥設計 (3) 堆肥成分の分析方法
	IV 緑肥
	V 参考資料

工 指導者を対象とした技術研修会の開催

年度	開催月日	内 容	参加人数
25	7月12日	【第1回土づくり研修】 ①日本一健康な土づくり運動の取組 ②全農土壌分析センターの概要 ③「あおもり土づくりの匠」取組事例ほか	41人
	9月12日	【第2回土づくり研修】 ①土壌関係試験の概要 ②土壌検定2級合格者から聞くポイント ③土壌分析結果の活用 ④「あおもり土づくりの匠」取組事例ほか	27人
	10月30日	【第3回土づくり研修】 ①土づくりを基本とした安全・安心な農産物のPR(事例報告) ②堆きゆう肥生産取組事例ほか	48人
26	6月30日	【第1回土づくり研修】 ①「あおもり土づくりの匠」取組事例 ②土づくりに役立つ農業機械 ③JA等土壌分析の計量法に係る対応状況	48人
	9月11日	【第2回土づくり研修】 ①「あおもり土づくりの匠」取組事例	17人
	10月28日	【第3回土づくり研修】 ①「あおもり土づくりの匠」取組事例 ②堆きゆう肥の生産・供給取組事例	30人
27	7月6日	【第1回土づくり研修】 ①土壌分析結果から見た県内土壌の状況 ②土壌の基礎知識と土壌診断の重要性 ③土壌診断処方せんの見方 ④土壌微生物多様性・活性値分析 ⑤「あおもり土づくりの匠」取組事例	54人
	8月26日	【第2回土づくり研修】 ①JA土壌分析センター見学 ②「あおもり土づくりの匠」取組事例	20人
	1月26日	【健康な土づくりレベルアップ研修会】 ①講演「目指そう！日本一健康な土づくり」 ②良質堆肥の見分け方とその活用方法	90人
28	6月15日	【第1回土づくり指導力向上研修会】 ①土壌の基礎知識と土壌診断のポイント ②土壌処方せんの見方 ③インターネットを利用した施肥設計支援システム「施肥なび」の操作方法 ④「あおもり土づくりの匠」取組事例	44人
	7月27日	【第2回土づくり指導力向上研修会】 ①土壌の簡易な地力窒素診断法 ②「あおもり土づくりの匠」取組事例	28人

(2) 土づくりの基本技術の励行

ア 土壌診断に基づいた適正施肥

(ア) 土壌診断の実施点数

(単位：点)

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
県(普及指導室)	2,127	1,099	934	946	1,332
市町村	1,969	1,016	1,190	1,269	1,383
J A	5,681	5,479	5,966	6,011	5,800
全農	5,226	2,161	3,018	3,482	5,701
肥料会社	—	—	—	14	20
合計	15,003	9,755	11,108	11,722	14,236

資料：県食の安全・安心推進課調べ

(イ) 土づくりに係る現地講習会の指導人数

年度	水稲	畑作物	野菜	果樹	花き	飼料作物	その他	計
23	238	24	207	62	22	—	2	555
24	437	30	194	62	17	—	15	755
25	344	28	191	56	27	9	7	662
26	243	23	234	51	23	8	3	584
27	375	26	280	63	20	6	10	780

資料：県食の安全・安心推進課調べ

イ イベント等での堆肥活用等の啓発

年度	内容
24	県産業技術センター農林総合研究所参観デー(2回) 同 りんご研究所参観デー(1回)
25	県産業技術センター農林総合研究所参観デー(2回) 同 りんご研究所参観デー(1回)
26	県産業技術センター農林総合研究所参観デー(1回) 同 りんご研究所参観デー(1回)
27	県産業技術センター農林総合研究所参観デー(1回) 同 りんご研究所参観デー(1回)
28	県産業技術センター農林総合研究所参観デー(1回) 同 りんご研究所参観デー(1回)

ウ 稲わらすき込み等の実演会の開催

年度	月日・場所
24	10月25日：青森市浪岡 10月下旬：弘前市、黒石市、平川市、藤崎町、田舎館村、西目屋村 10月15日：つがる市 10月24日：五所川原市
25	10月22日：青森市 10月15日：黒石市 10月24日：五所川原市
26	10月27日：青森市浪岡 9月15日：鶴田町
27	10月24日：青森市浪岡 10月15日：つがる市
28	10月26日：青森市

(3) 持続可能な「土づくりシステム」の構築

ア 効率的な土壌診断体制の整備

JA全農あおもり土壌分析センターの作物別分析実績

(単位：点)

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
水稲	—	—	121	419	3,513
りんご	—	—	409	413	255
ながいも	—	—	52	105	65
にんにく	—	—	917	890	987
トマト	—	—	549	600	264
その他	—	—	970	1,055	617
計	5,226	2,161	3,018	3,482	5,701

イ 作業組織の育成に係る補助事業等の実施状況

(ア) 有機質資源活用・GAP取組組織活動支援事業

年度	支援内容	事業主体
24	有機質資源活用組織活動	JA八戸トマト・ミニトマト専門部会 八戸支部
	GAP取組組織活動	JA相馬村、JA津軽みらい
25	有機質資源活用組織活動	JA青森トマト部会東つがる支部、 屏風山蔬菜生産組合
	GAP取組組織活動	グリーンアイこだわり栽培推進協議会

(イ) 土づくり指導強化支援事業

年度	支援内容	事業主体
26	土壌物理性データを連動させた土壌診断施肥設計システムの導入等	全国農業協同組合連合会青森県本部

ウ 堆肥製造施設の利用率向上等に係る補助事業等の実施状況

青森県土づくり組織等再生強化支援事業

年度	支援内容	事業主体
26	堆肥供給PR資材及び堆肥袋の作成	(株) たにかわ牧場
27	堆肥袋の作成 堆肥発酵促進作業補助員雇用 堆肥成分分析	(有) フレッグ農産
	補助原料運搬等の作業補助員雇用 発酵促進剤の購入	(株) たにかわ牧場
	堆肥運搬供給散布体制の検討	屏風山蔬菜生産組合

エ 稲わら有効利用の推進

(ア) 稲わら流通促進商談会等の開催状況

年度	開催月日	商談成立件数（数量）
24	8月1日	66件（1,726t）
25	9月10日	73件（1,990t）
26	9月9日	67件（3,092t）
27	9月2日	35件（2,366t）

2 土づくりを基本とした環境にやさしい農業の拡大

(1) 環境にやさしい農業に意欲的に取り組む“人づくり”

ア 先進実践ほ場（有機実践者等）を活用した情報交換会等の開催

年度	開催月日	開催場所	作物	参加人数
24	7月18日	中泊町 藤崎町	水稲・トマト りんご	40人
	7月24日			41人
25	7月10日	八戸市 藤崎町	野菜 水稲	24人
	7月24日			29人
26	7月22日	三沢市 黒石市	ながいも りんご	32人
	8月22日			13人
27	8月10日	藤崎町	水稲	11人

イ フォーラムの開催

年度	開催月日	内 容
24	2月26日	【講演1】「大潟村有機農業推進協議会の取組」 大潟村有機農業推進協議会 会長 佐藤 誠 【講演2】「ネット販売における『環境にやさしい農産物』の流通動向とネット販売の基礎知識について」 (株) カメアシエンタープライズ代表取締役 成田光秀
25	1月28日	【基調講演】「環境にやさしい農産物の流通動向と販売工夫」 (株) 大地を守る会取締役 長谷川 満 【事例発表】「特別栽培による売れるりんごづくりと販路開拓」 (有) 宝荘代表取締役 花田哲也 【事例発表】「地域の環境に配慮した大規模水田経営」 (有) 豊心ファーム代表取締役 境谷一智

ウ エコ農業学校の開催

年度	開催月日	内 容	参加人数
26	6月30日	①【講演】「健康な土づくりについて」 堆肥・育土研究所 主宰 橋本力男 ②環境にやさしい農業に係る制度について	90人
	7月22日	①ながいものIPM技術について ②実践者との意見交換	32人
	8月26日	①りんごのIPM技術について ②実践者との意見交換	13人
	2月9日	①エコ農産物の流通・販売について ②トムベジについて	98人
27	7月3日	①認証制度、エコ農産物協力店等について ②【講演】「堆肥作りの基礎」 堆肥・育土研究所 主宰 橋本力男	37人
	8月10日	①水稻のIPM技術について ②エコ農産物の流通・販売について ③実践者との意見交換	11人
	10月28日	①エコ農産物の流通・販売について ②こだわりのエコ農産物について	71人
	2月28日	①もも、なしのIPM技術について	13人
28	7月28日	①認証制度の紹介について ②【講演】「転炉スラグを利用した土壌病害軽減対策について」 (地独) 青森県産業技術センター 農林総合研究所 研究管理員 岩間俊太	19人
	8月31日	①認証制度と生産販売の状況について ②【講演】「消費者が求める安全・安心な農産物生産と販路開拓」	28人